

6 スピーカーを決めます。

お好みのスピーカーが決まっている場合は、できるだけリスニングポイント（視聴位置）から均等な距離にスピーカーをレイアウトします。大画面ホームシアターには5.1ch以上のシステムをお選びになる方が増えています。サブウーファーは通常フロントにおきますが、リビングシアターではボリュームの関係からリスニングポイントの近くに置いておかまいません。リビングシアターでは、日常生活とシアターのバランスを考えてスピーカーを選びましょう。



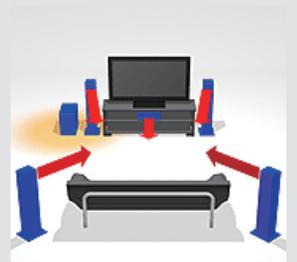
・トールボーイ型



・ブックシェルフ型



・埋め込み型

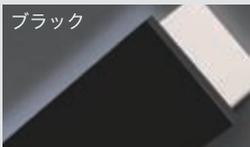


・5.1chイメージ

・写真提供：オンキヨー&パイオニアマーケティングジャパン株式会社

7 空間デザインを決めます。

専用ルームではできるだけ良質な映像を見るために、室内は光を吸収する色や素材で統一するのが一般的です。また、リビングシアターでは、お部屋にあわせてスクリーンケースやプロジェクター、スピーカーなどといった製品のカラーを合わせたり、プロジェクター昇降機を使ってプロジェクター本体を隠したり、カーテンボックスを作ってスクリーン本体を目立たないように工夫したりして日常生活との調和を図ります。



ブラック



昇降機



カーテンボックス



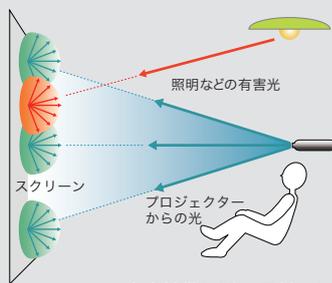
ホワイト

8 スクリーン素材を決めます。

これまでに述べたようにスクリーンサイズやレイアウトによってスクリーン素材は選定されます。スクリーンには大きく分けて次の3つの光学特性があります。

※有害光：スクリーンの映像に影響を与える邪魔な光。

拡散型(ホワイト)



完全拡散に近い反射をします。

入射光に対し全方向に拡散するので視野角が広く、部屋のどこからでも同一の映像を見る事ができる、最も使用されているスクリーンです。ただし、有害光^{*}も同様に拡散するため、暗い部屋、プロジェクターの光出力に余裕がある事が要求されます。階調表現がナチュラルなので、映像表現が主体のコンテンツなどに特にオススメです。

WG

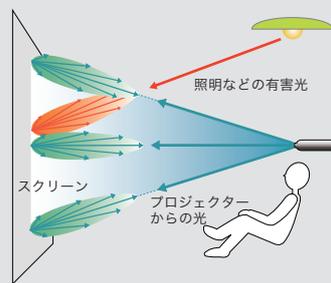
WF302

WS102

WS103

E2S

回歸型(ビーズ)

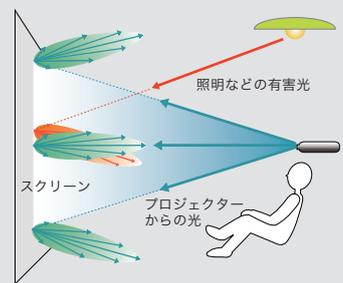


入射と同一方向に反射します。

表面に光学レンズガラス球を散りばめたスクリーンです。入射光と同じ方向に反射光が戻る性質なので、照り返しや有害光^{*}の影響が少ないのが特長です。プロジェクターの光量を補い、シャープなフォーカス感とテレビ感覚の、ダイナミックな映像で、リビングシアターや3Dにふさわしい生地です。プロジェクターに近い位置で見る必要があります。

BU202

反射型(パール)



入射方向に対し正反対に反射します。

表面に均一に特殊パール顔料をグラビア印刷し、高輝度を維持しながら広視野角を確保したスクリーン。光を入射角に対し同角度に反射させる反射型です。視聴位置に対し対称となる位置にプロジェクターを置く必要があります。真価を発揮させるには、より暗い視聴環境を設定する事が望まれます。